

「三木町総合計画(案)」についてのパブリックコメント(意見回答)

No	意見	回答
1	三木町総合計画(案)は三木町という形ありきで作成されているが、それで本当に良いのか甚だ疑問である。マスの大きな方が金も力もあると思えるし高松市、さぬき市等に頼らざるを得ないのが現状と思うが将来高松市等との合併を検討する必要があると思う。	<p>平成の大合併において本町は、単独町として歩むことを選択し、町政施行 70 年余、比較的健全な行財政運営を確保できております。</p> <p>総合計画は、町の枠組みにおける施策方針を定めるものであり、ご指摘の市町村合併といった、町の枠組みそのものを検討する性格のものでないことをご理解ください。</p> <p>一方で、近年の物価高騰や外交安全保障など、困難な社会情勢において、ご指摘のとおり、スケールメリットを活かした効率的かつ強靭な行政運営は必要不可欠であり、今後とも「Ⅱ-2-1瀬戸・高松広域連携中枢都市圏」等の施策を通じ、周辺自治体とより連携を密にし、本計画の着実な推進に努めます。</p>
2	三木町の全地域を隈なく均等に扱うことが本当に良いことだろうか、切り捨てろとは言わないがメリハリをつけても良いのではないかと思う。	<p>ご指摘のとおり、行財政運営は費用対効果が求められており、地域特性の異なる地域に同量の資源を投入することは困難であることも認識しております。</p> <p>しかしながら、平等性の原則に立ち、同水準のサービスを維持することも一方で必要なことであり、サービス水準を極力維持しながらも、適正な資源配分量を見極め、持続可能な事業運営に努めることが重要であります。</p> <p>本計画においても、策定に当たって人口ビジョンや住民アンケートの分析、現行計画の振り返り等、地域特性や人口動態等を踏まえた施策の重点化等を通じて、実質的な効率化・最適化を図る考え方を取り入れて策定しておりますのでご確認ください。</p>
3	行政改革の項目は ICT、AI の活用により効率化等と書かれているが評価基準、目標が明記されておらず意味がない。	<p>行財政改革基本方針の目標値・実施スケジュールに関しては、当方針をパブリックコメントにてご確認いただいた後、さらに細分化しマニュアル化した行財政改革実施計画(R8.3 策定・ホームページ公表予定)で定めることを予定しております。</p> <p>行財政改革における ICT 化等に関しては、導入する ICT 機器、活用する分野の特定等、適正な方針の</p>

		<p>確定が前提であり、定量的な目標設定は困難であります。</p> <p>しかしながら、策定済みの「DX 推進基本計画」に基づき、庁内ワーキンググループ等の検討を通し、本町の地域特性に見合った整備量、住民ニーズを踏まえた手法等を明確化し、随时事業化、実装することを定性的な目標として設定する予定としております。</p>
4	<p>特に交通利便性の向上(P53～)で香川県の計画で三木町に該当する道路計画等については待っているだけではなく促進すること(例えば県の計画を3年前倒しする)を追加する。</p>	<p>現状、施工中路線を除き、中長期的に町内において、大規模な県道改良は計画されておらず、町では、住民要望の高い町道の維持修繕を中心に進めることとしております。</p> <p>ご指摘のとおり、国道、県道等においても修繕、改良が必要と思料される箇所があることも認識しており、国道、県道の事業については、事業主体が国または県であることから、町単独での事業時期の決定は困難ではありますが、住民要望等に応じ、国、県に対し早期事業化を働きかけていく旨、「V-2-2 道路・橋梁の維持修繕」に盛り込みます。</p>
5	<p>行財政改革においてスピードアップを図ることが大切であるが本計画ではスピード感と表現されておりどの位スピードアップかダウンかも記述されておらず單なる掛け声だけとなる恐れがあるんで目標を設定する必要がある。</p>	<p>本計画における「スピード感」とは、課題認識から検討、実装までのプロセスを可能な限り簡素化・迅速化するという趣旨で用いております。</p> <p>行財政改革基本方針の目標値・実施スケジュールに関しては、当方針をパブリックコメントにてご確認いただいた後、さらに細分化しマニュアル化した行財政改革実施計画(R8.3 策定・ホームページ公表予定)で定めることを予定しております。</p>
6	<p>住民参加型対話の場「百眼百考会議」を、現状に即した形にアップデートし、再実施することを提案します。(通称:「リバイバルだよ！百眼百考会議」)</p> <p>町と関わり続けられる機会を整備し、多様な立場や世代の声を丁寧に拾う場とすることを望みます。</p> <p>三木町の強みは「三木町が三木町であり続けていること」にあります。合併せず、一町として存続し続けてきた</p>	<p>本総合計画策定に当たって参考にした地方創生2.0において、人口減少社会にあって、関係人口や地域コミュニティの活性化などを促進した新たな人材の流れを推進するという考えが、重要な柱として定められております。</p> <p>また、令和7年12月23日に閣議決定がなされた「地域未来戦略」でも、「選ばれる地方」という考えが示され、都市から地方への人の流れが推進されていくものと見込まれます。</p> <p>本町でも、「若者が帰ってくるふるさとを創る」のスローガンのもと、地域コミュニティでの協働や関係</p>

	<p>歴史は、自治を維持し、地域の暮らしを大切にしてきた結果であり、「住み続けたい街1位」の評価を支える土台となっています。</p> <p>また、縦長の地理特性から発掘しがいのある地域であり、電線に遮られず見える山々、ひらけた景色など、暮らしの質が高いことも魅力です。</p> <p>住民が地域の出来事に関わり、ともに取り組む機会の積み重ねが地域への愛着や「住み続けたい」という意識につながると実体験も含め感じています。こうした関係性を育むためには、町と関わり続けられる機会や「よりしろ」を意識的に整備することが必要です。</p> <p>三木町と「これまで、そしてこれから」関係を持つ人たちには、現在住んでいる人だけではなく、将来離れる可能性のある人、一旦離れても戻る人、過去に関わった人、これから関わる人も含まれます。</p> <p>こうした多様な立場の声を丁寧に受け止め、町と関わりを続けられる仕組みを持つことは、総合計画の実効性や町民参加を高める上で有効です。</p> <p>学生など声が届きにくい層も含め、幅広く意見を集められる場とともに、総合計画の方針を町民が計画を「自分ごと」として理解できる機会を設けることも重要です。</p>	<p>人口、UJI ターンの人たちなど、本町に関係を持つ人が「住み続けたい」と思える街をめざして施策を講じております。</p> <p>また、本計画中「II-1 移住・定住・交流施策の推進」において、イベントやワークショップ等、地域に根差した地域活動支援を通じた、顔の見える関係の構築について検討しております。</p> <p>ご提案いただいた住民参加型の会議は、幅広い層から地域への愛着や「自分ごと」として理解する機会の提供に非常に有用であり、上記総合計画推進の具体的な施策として、開催形式、審議内容等を十分吟味し、必要に応じ、開催可否を検討いたします。</p>
7	<p>三木町が掲げる将来像「若者が帰ってくるふるさとを創る」の実現に向け、以下の施策を提案いたします。</p> <p>「いちご課」および「獅子舞課」の設置、また、「町公式 LINE」の設置</p> <p>専門部署としての「いちご課」を設けることで、計画に掲げる「地域ブラン</p>	<p>本町の観光・産業資源について、発信力の強化や地域ブランド化の推進によるシビックプライドの深化等に関し、本総合計画において規定しております。</p> <p>特に、付加価値創出による地域ブランド化については、国の地方創生 2.0 で重要項目として掲げられております。</p> <p>また、令和7年12月23日に閣議決定がなされた「地域未来戦略」では「強い経済」に力を置くことが示され、地場産業の付加価値創出、販路開拓等に一</p>

ド化」や「販路拡大」をより強力に推進できるのではないかと思われるため。また、「獅子舞課」では文化振興にとどまらず、観光資源としての活用や、若者が地元に愛着を持つためのシンボルとなるのではと思われるため。

町公式 LINE を設置することで、生活情報や地域イベント、または行政からのお知らせなどを即時に伝えることができる。

※広報誌ではスピード感が劣ってしまう、また Instagram より LINE の方が普及率が高い。

層の推進が見込まれます。

ご提案いただいている新たな課の設置に関しては、人員配置含めた機構改革に関するもので、施策を定める総合計画の中で定めることは困難ですが、今後の全庁的な検討内容として認識させていただきます。

また、「I -4-1 観光資源の創出・活用」や「II -1-1 移住・定住の促進」の主な事業として、「SNS等を通じた情報発信」を定めており、即時性、認知度が高いツールとして公式 LINE 等の導入についても検討の対象としております。

なお、本町の主要な特産品であるいちごのプロモーション、販路拡大については今年度から開始しており、本総合計画の中で加速させていきたいと考えております。